



令和3年度 日本大学 学生FD CHAmmit NEWS LETTER



・アフターコロナ・
～IT化と大学教育～



声

にマスクは必要ない。

CHAmmitとは、日大全学の学生・教員・職員で「日本の教育をより良くする」ためのグループワークを行うイベントです。これまでたくさんの学生が作ってきたCHAmmit、9回目となる今年はどんな内容になるのでしょうか。参加資格は日大生なら誰でも！ご参加お待ちしております。右側募集欄をクリックしてホームページをご覧ください！！

【募集締切／令和3年11月12日（金）】

CHAmmit 参加者募集

開催方式：ZOOMによる
オンライン開催
開催日時：11月28日（日）
13:00-16:30

★お申し込みは★
こちらをクリック！

学生の声^①が大学を変える

【テーマ】

今回の CHAmmit のテーマは「アフターコロナ～IT化と大学教育～」でした。

新型コロナウイルスの影響でオンライン授業が取り入れられ、大学教育がIT化されました。コロナ禍のオンライン授業から活かせるものを探り、私たちの学生生活を見つめなおして、アフターコロナの大学教育の改善を目指すという思いからテーマが決まりました。今回のしゃべり場では、キャンパスライフのメリット・デメリットを改めて確認したうえで、昨年度の学部提案書の実施状況を確認しながら、さらなる教育改善につながるディスカッションを行いました。

【目次】

テーマ・活動内容	…… 1
セッション1について	…… 2
セッション2について	…… 3
セッション3について	…… 4

【活動内容】

6月から11月にかけて、オンラインでのミーティングを重ねました。感染症対策のため、昨年度に引き続き、オンラインでの開催となりました。

編集：令和3年度 日本大学 学生FD CHAmmit 学生スタッフ
渡部 大雅（文理学部中国語中国文化学科3年）
土屋 怜王（経済学部経済学科2年）
後藤 菜月（国際関係学部国際教養学科3年）
他一同

発行：日本大学FD推進センター
お問い合わせ：日本大学本部学務部学務課
〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24
E-mail：adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp
ホームページ：<http://www.nihon-u.ac.jp/fd-center/>



CHAmmitは今年で9回目なのじゃ！

チャミット伯爵
(令和3年度CHAmmit マスコットキャラクター)

セッション1

キャンパスライフのメリット・デメリット

セッション1では、「キャンパスライフのメリット・デメリット」について意見を共有し、話し合いました。特にオンライン授業をメインに受けている1, 2年生と対面授業を経験している3, 4年生の間では、授業そのものに対する考え方の違いなどが表れていました。また、教員からは、授業準備や気を付けていることを共有して貰い、いま存在する課題を明確にするうえで、学生、教員、職員が意見を交換する場となりました。

【オンライン授業のメリット】

- ・ 復習しやすい
- ・ 好きな時に学ぶことができる

【オフライン授業のメリット】

- ・ 勉強に集中することができる
- ・ 試験の不正が少ない

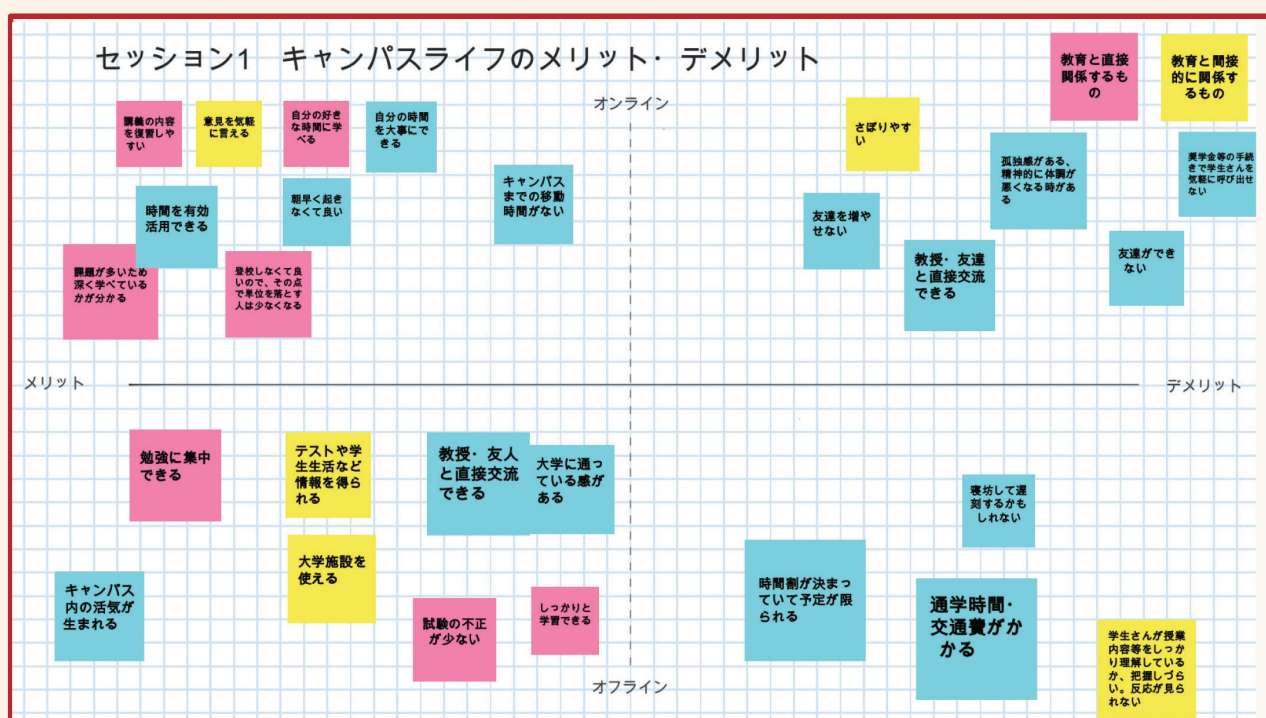
【オンライン授業のデメリット】

- ・ グループワークなどの共同作業に限界がある
- ・ 教員や友達と交流しにくい

【オフライン授業のデメリット】

- ・ 教員が資料を印刷しなくてはならない
- ・ すぐに質問しにくい

セッション1で用いたホワイトボードの一例



セッション2

アフターコロナの日大の教育

セッション2では、学部ごとに分かれて「アフターコロナの日大の教育」について話し合いました。セッション1で出た意見と昨年度の改善報告書を照らし合わせながら、重要度の高い課題と新たな課題の洗い出しを行いました。そして、その中で学部ごとの授業の現状課題を整理しました。昨年度の提案の実施状況を確認することで、普段は見えない教職員側の配慮を学生が知る良い機会になりました。

【昨年度の改善報告書】

- ・ オンライン授業でも社会人聴講生を受け入れてほしい
- ・ 学生同士の交流の場がほしい
- ・ 学生同士のZoomでのイベントを学生が企画したい
- ・ 成績評価の基準を統一してほしい

【新たな課題】

- ・ 質問をしやすいようにしてほしい
- ・ 授業資料のデータを長期間残してほしい
- ・ グループワークの機会が少ない
- ・ ハイブリッド型授業を学内で受講する環境が整備されていない

セッション2で用いたホワイトボードの一例

セッション2 昨年までの提案書の状況

実施不可	理由・背景	検討中
<p>オンライン授業でも、社会人聴講生を受け入れてもらいたい。</p> <p>社会人聴講生が授業に参加できると、コミュニケーションが取りやすくなり、ZoomなどのプラットフォームやBlackboardなどのツールを活用して、社会人聴講生が参加できる可能性が高くなる。しかし、社会人聴講生を受け入れてほしい。社会人聴講生が参加できるような環境を整えてほしい。</p>	<p>学生同士の交流の場を設けて欲しい。</p> <p>Zoomのブレイクアウトルームやチャット機能を利用して、学生同士のコミュニケーションが取りやすくなる。また、教員も参加して交流を図ることが期待されている。</p>	<p>学生同士のZoomでのイベントを学生が企画したい。</p> <p>学生同士の交流の場を、Zoomなどのプラットフォームを利用して、学生が企画できるようにしてほしい。また、教員も参加して交流を図ることが期待されている。</p>
	<p>先生同士で成績評価の仕方を通して、評価の方法や基準を統一してほしい。</p> <p>成績評価は授業の進捗に合わせた方法で行うことが望ましい。評価の方法や基準を統一することで、学生が理解しやすい環境を整えてほしい。</p>	

セッション2 新たな課題

新しい課題・問題	意見・具体案
<p>オンデマンド授業の導入が難しい。</p> <p>オンデマンド授業の導入が難しい。授業の形式をSNS方式のようにしてほしい。授業の形式をSNS方式のようにしてほしい。授業の形式をSNS方式のようにしてほしい。</p>	<p>リアルタイム授業が少ない。</p> <p>リアルタイム授業が少ない。リアルタイム授業が少ない。リアルタイム授業が少ない。</p>
<p>授業資料のデータを長期間残してほしい。</p> <p>授業資料のデータを長期間残してほしい。授業資料のデータを長期間残してほしい。授業資料のデータを長期間残してほしい。</p>	<p>グループ発表の場が少ない。</p> <p>グループ発表の場が少ない。グループ発表の場が少ない。グループ発表の場が少ない。</p>
<p>対面でのグループワークの機会が少ない。</p> <p>対面でのグループワークの機会が少ない。対面でのグループワークの機会が少ない。対面でのグループワークの機会が少ない。</p>	<p>ハイブリッド型授業を学内で受けにくい。</p> <p>ハイブリッド型授業を学内で受けにくい。ハイブリッド型授業を学内で受けにくい。ハイブリッド型授業を学内で受けにくい。</p>



多くの課題が見えてきたのじゃ！

セッション3

各学部への提案 ～IT化と大学教育～



セッション3では、「IT化と大学教育」というテーマに沿った学部提案書を作成しました。特にこれまでの授業でうまくデジタル技術を取り入れられていなかった部分のIT化や対面授業に戻っても継続した方が良いオンラインシステムについて、学部への提案としてまとめました。これまでの学生生活の中で生まれた気付きから、これからのより良い授業へ繋げるとても有意義な時間でした。

【「IT化と大学教育」へ向けての提案】

- ・ポータルサイトの掲示板の周知度が低い、積極的に宣伝してみてはどうか
 - ・対面授業に戻っても、課題をオンラインで提出できるようにしてほしい
 - ・学内にオンライン授業を受講するための専用スペースを置いてほしい
- など、多くの意見を集めました。

作成された学部提案書を基に、各学部において学生及び教職員の三者で協議し、学修環境の改善を図っていきます！

学部提案書（文理学部）

学部提案書（芸術学部）

学部提案書 (文理) 学部	①昨年度授業の状況 (現状の整理)	②一年経った経緯 (新たな経緯)	③「IT化と大学教育」へ向けての提案
<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業でも、社会人聴生を受け入れてもらいたい。 →実施不可 中高年の人々が多いので難しい。対面授業が開始できれば再開する。 ・学生同士の交流の場を設けて欲しい。 →検討中 ZoomのBORを利用するか。 ・学生同士のZoomでのイベントを学生が企画したい。 →検討中 広報の方法も含めて検討中。 ・先生同士で成績評価の仕方を話し合せて、評価の方法や基準を統一してもらいたい。 →検討中 教員同士で協議できる学科から協議を開始してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンデマンド授業の場合に質問しにくく、質問のハードルを下げたい。 →授業開始の段階で質問したい。 →質問したい内容を事前に提出してほしい。 →質問のハードルを下げたい。 →質問のハードルを下げたい。 →質問のハードルを下げたい。 →質問のハードルを下げたい。 ・授業資料のデータを長期開示してほしい。 →授業資料にアクセスしても課題をオンラインで提出できるようなしてほしい。 →授業資料のデータを長期開示してほしい。 →授業資料にアクセスしても課題をオンラインで提出できるようなしてほしい。 ・対面でのサークルの再開基準を明確にして告知してほしい。 →対面でのサークルの再開基準を明確にして告知してほしい。 →対面でのサークルの再開基準を明確にして告知してほしい。 ・リアルタイム授業が少ない →リアルタイム授業を増やしてほしい。 →リアルタイム授業を増やしてほしい。 →リアルタイム授業を増やしてほしい。 ・対面とオンラインとを選択できる授業を今後も継続してほしい。 →対面とオンラインとを選択できる授業を今後も継続してほしい。 →対面とオンラインとを選択できる授業を今後も継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対面とオンラインとを選択できる授業を今後も継続してほしい。 →対面とオンラインとを選択できる授業を今後も継続してほしい。 →対面とオンラインとを選択できる授業を今後も継続してほしい。 ・オンデマンド授業の場合に質問しにくく、質問のハードルを下げたい。 →授業開始の段階で質問したい。 →質問したい内容を事前に提出してほしい。 →質問のハードルを下げたい。 →質問のハードルを下げたい。 →質問のハードルを下げたい。 ・ハイブリッド型授業を学内で受けたい。 →ハイブリッド型授業を学内で受けたい。 →ハイブリッド型授業を学内で受けたい。 ・学生同士の交流の場を設けて欲しい。 →学生同士の交流の場を設けて欲しい。 →学生同士の交流の場を設けて欲しい。 ・授業資料のデータを長期開示してほしい。 →授業資料にアクセスしても課題をオンラインで提出できるようなしてほしい。 →授業資料のデータを長期開示してほしい。 →授業資料にアクセスしても課題をオンラインで提出できるようなしてほしい。 	

学部提案書 (芸術) 学部	①昨年度授業の状況 (現状の整理)	②一年経った経緯 (新たな経緯)	③「IT化と大学教育」へ向けての提案
<ul style="list-style-type: none"> ・学生同士で交流できる場を設ける ・オンデマンドにより、授業の理解度アップにつながる ・対面とオンラインのハイブリッド授業 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学生同士で作品を見てコメントしコミュニケーションできるシステムについて」現在のGoogle classroomの機能だと、教員が課題を「質問」として出すならば提出した作品を学生同士で閲覧することは可能だが、他の受講生に見られないように、作者だけが見られる形でコメントを送れる機能はない。 ・オンデマンド授業において、学生が好きな時間に見られるという利点はあるが、質問に対して教員のレスポンスが1週間以上かかることもある ・コミュニケーションツールの存在の認知不足 ・授業を受けられない生徒を取り戻せたい。 →授業を受けられない生徒を取り戻せたい。 →授業を受けられない生徒を取り戻せたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題で作った作品を見てコメント、そこから同じ方向性を持つ人とコミュニケーションが取れるようなシステムが必要 ・全作品を公開して、作者だけに限られるようなコメントが送れる機能がある方がいい。(他SNSで閲覧は勇気がある) ・オンデマンド授業でも、高校などの放課後に職員室で先生に質問をするような感じで、授業外に質問(強制的に)のため、学生も先生も負担にならない程度が望ましい]でリアルタイムで質問できるようなタイミングを設ける。 	



各学部に改善を促すのぢゃ！